こどもが まんなか

いわてのWAっこ

いわて幼児教育センター通信
No.1　令和7年5月27日発行
発行・編集
岩手県教育委員会事務局学校教育室
（いわて幼児教育センター）
本通信は岩手県HPからダウンロードできます
https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html

令和7年度も“いわて幼児教育センター”をよろしくお願いいたします

いわて幼児教育センターは開設４年目となりました。研修、訪問支援、調査研究・情報共有の三つの機能を生かして、岩手の就学前教育を支えていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

R7 幼児教育センターの方針

理念　すべての子どもたちと学校のウェルビーイングの実現をめざして

方針　就学前教育の質の向上
幼児教育と小学校教育の円滑な接続
連携した推進体制の下の一体的な取組

「寄り添う」「受け止める」「柔軟に考える」心構えで、県内の保育者等と共に子供たちの学びを支えます。
（題字のマーク⤴は今年度の理念を示しています。）

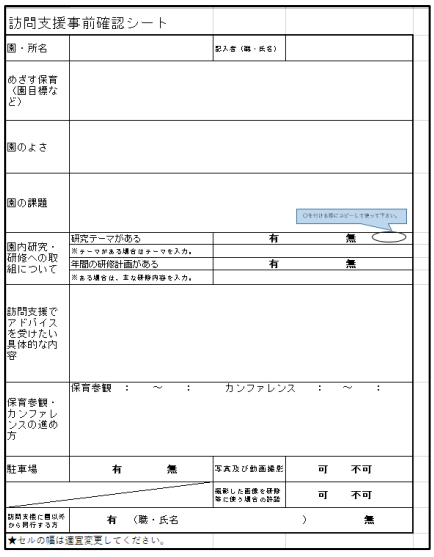
〈令和７年度　スタッフ紹介〉

○いわて幼児教育センター長	佐々木　淳一
○主任指導主事	瀬谷　圭太
	髙橋　文子
○主事	山崎　美咲
○幼児教育専門員	岸　隆子
	千葉　満佐子

“いわて幼児教育センター”3つの機能に関わる今年度の取組

訪問支援

５月16日から訪問が始まりました。各園から右の「訪問支援事前シート」を返送いただいています。シートには、「発達に合った玩具についてもっと知りたい」「小学校との連携に取り組んでいるが他の連携方法も学びたい」などの思いが記載されており、その思いに合わせたカンファレンスやアドバイスを行っています。今年度は、普段の園内研修のように、主任の先生方がカンファレンスを進行してくださる園が多いです。保育の質向上に向けて、県内各地で各園が主体的に取り組んでいることを感じます。訪問の様子は次号から紹介します。



訪問支援事前確認シート

園・所名		記入者（職・氏名）	
めざす保育（園目標など）			
園のよさ			
園の課題			
園内研究・研修への取組について	研究テーマがある ※テーマがある場合はテーマを入力。	有	無
	年間の研修計画がある	有	無
	※ある場合は、主な研修内容を入力。		
訪問支援でアドバイスを受けたい具体的な内容			
保育参観・カンファレンスの進め方	保育参観　：　～　：　カンファレンス　：　～　：		
駐車場	有　無	写真及び動画撮影	可　不可
		撮影した画像を研修等に使う場合の許諾	可　不可
訪問支援に園以外から同行する方	有　（職・氏名　　）		無

★セルの幅は適宜変更してください。

調査研究・情報共有

◎モデル指定研究事業
- 宮古市（Ｒ６～Ｒ７）「福祉等の専門職と連携した架け橋カリキュラム開発」
- 大槌町（Ｒ７～Ｒ８）「架け橋期のカリキュラム作成と保育者・教員の専門性の向上」

開発会議や互見保育・授業に幼児教育センターも参加します。

◎総合教育センター長期研修生の研究（数週間の保育体験を生かしたスタートカリキュラム作成）
◎岩手の幼児教育　★県内の園に執筆をお願いすることがあります。

研修

本年度、いわて幼児教育センターでは、下記の研修を実施します。

実施要項がその都度発出されますので、園に届きましたら内容をご確認ください。総合教育センターHP からも申込みができます。

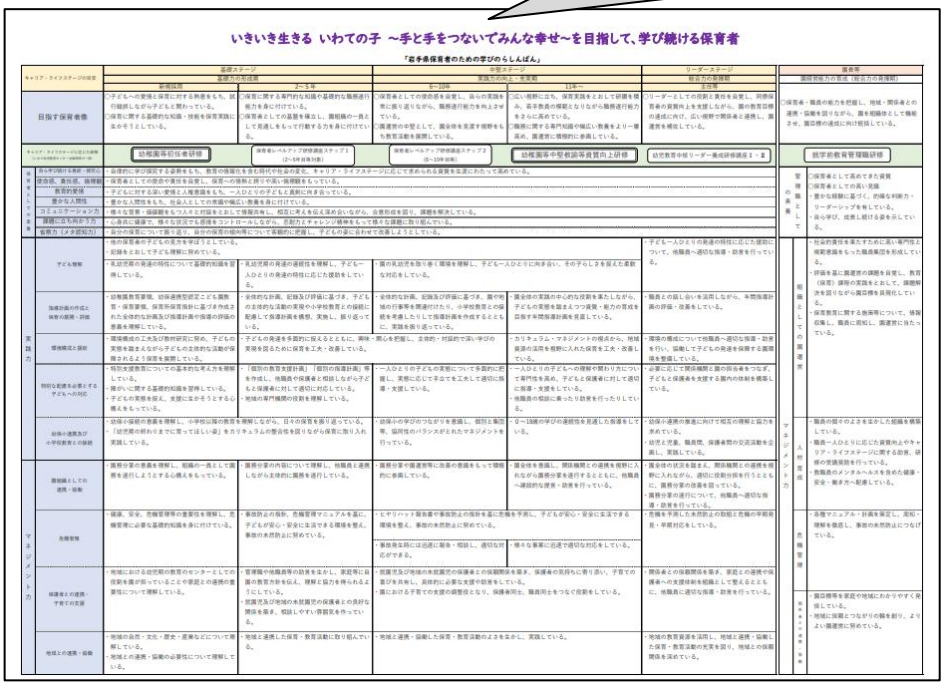
こちらから申込みできます。

開催日	研修名	場所	申込締切
5／13（火）	幼児教育アドバイザー・中核リーダーⅠ	附属幼稚園	済
6／6（金）	園長等運営管理研究協議会	生涯学習推進センター	済
7／9（水）	市町村幼児教育推進協議会	サンセール盛岡	別途通知
8／29（金）	幼児教育スキルアップ協議会　☆	生涯学習推進センター	8/7(木)
9／18（木）	幼児教育研究協議会　☆	生涯学習推進センター	9/4(木)
10／28（火）	保育者レベルアップ研修講座ステップ１（２～５年目等対象）　☆	総合教育センター	10/14(火)
11／13（木）	幼児期からの学びをつなぐ研修会	生涯学習推進センター	10/27(月)
12／18（木）	保育者レベルアップ研修講座ステップ２（６～10 年目等対象）　☆	総合教育センター	12/4(木)
1／20（火）	幼児教育アドバイザー・中核リーダーⅡ	総合教育センター	済

☆は保育士等キャリアアップ研修を兼ねています。

研修を選ぶ際は、「いわて保育者のための学びのらしんばん」を参考にすることができます。

・・・岩手県 HP よりダウンロードできます。・・・



～5月 13 日の研修より～

附属幼稚園の保育を参観し、協議を行いました。季節の自然を生かした環境の下で遊ぶ子ども達の姿から、「子供の体験していること」「環境構成や援助」について、それぞれの意見を交わしました。このそれぞれの言語化が、保育者にとっての学びの体験になっています。